

SDGs達成に向けた資金調達： 国家予算へのSDGsの組み込みの強化

国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS)

マヘスティ・オキタサリ(コンサルタント)、

竹本明生(プログラムヘッド)、

丸山鳴(プログラムコーディネーター)

2015年のSDGs採択以降、エネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合が増加し、極度の貧困と児童死亡率が低下するなどSDGs達成に向けた取組には進捗が見られた*1。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大やロシアのウクライナへの侵略、気候関連災害の増加などグローバルな危機の発生が脆弱な立場に置かれた人々の健康や生活を脅かし、最貧国を中心にSDGsの進捗が遅れている状況が明らかとなっている。

こうした状況を打破し、SDGsを達成するためにどうするべきか。万能薬は存在しないが、とりわけ行政が民間企業、市民社会など様々な主体との連携を強化し、開発計画・戦略とSDGsの統合、国家予算へのSDGsの組み込みなど様々な施策を強化していく必要がある。本稿では、UNU-IASが実施する「持続可能な開発のためのガバナンス」プロジェクトにおける研究成果より、海外におけるSDGsと予算の整合化に向けた取組事例を紹介する。

SDGs目標毎の予算配分の可視化による有効性

SDGsを国家予算と整合化させるために、国の開発計画、予算手続き、公共事業計画や枠組みの中で、これらの政策とSDGsの各目標との関係性を分析し、最適な手法を選択することが必要である。特に、国の予算とSDGsの整合化を図るためには、政府の各省庁の施策（事業）レベルでSDGsのタグ付けを行っていくことが有効である。このような予算編成へのSDGsのタグ付けは、開発計画・戦略とSDGsとの統合を図り、戦略的目標と予算配分に一貫性を持たせることが可能だ。SDGsの目標ごとの予算配分を可視化し、これらの情報を基に各国の財務省と省庁の間で

SDGs推進の視点で調整が行われることで、戦略的なSDGs予算の企画立案及び実施が可能な政策枠組みの構築が促進される。

すでに一部の国では政府予算へのSDGsのタグ付けが進められている。ウズベキスタン共和国では、2019年にSDGs予算のタグ付けを試験的に実施した結果、「目標1：貧困をなくそう」への国家予算を2019年度の70.7%から2022年度には72.3%に増加させた。

また、国連の支援のもと、51カ国（2022年時点）で、「統合された国家資金調達フレームワーク（INFF）」の構築が進んでいる。INFFは、予算項目をSDGsの指標に沿って分配するための要件を設定し、この要件に沿った各指標への予算配分を決めることで、国の開発計画の優先課題とSDGsへの取組に対する資金調達の統合を目指す枠組みである。現在、カンボジア王国、フィリピン共和国、東ティモール民主共和国、コロンビア共和国などで取組が進められている。

例えばコロンビア共和国では、直接的な影響があるSDGs指標だけでなく、間接的に関連するSDGs指標への配分も設定されている。投資事業の予算の場合、全体の75%が直接的に貢献するSDGs指標に割り当てられ、残りの25%は、5%ずつ間接的に達成に貢献する5つのSDGs指標に配分が設計されており*2、複数のSDGs指標に予算が割り当てられる枠組みとなっている。このプログラムを通じて実施した2020年度予算評価の結果、予算の89%がSDGsに貢献するものであると検証された（図1）。

*1：UN. (2023). Progress towards the Sustainable Development Goals: Towards a Rescue Plan for People and Planet. Report of the Secretary-General (Special Edition). A/78/XX-E/2023/XX. Advance unedited version. May 2023. New York: United Nations.

*2：SDG Alignment and Budget Tagging: Towards An SDG Taxonomy
<https://www.jointsdgfund.org/publication/sdg-alignment-and-budget-tagging-towards-sdg-taxonomy>

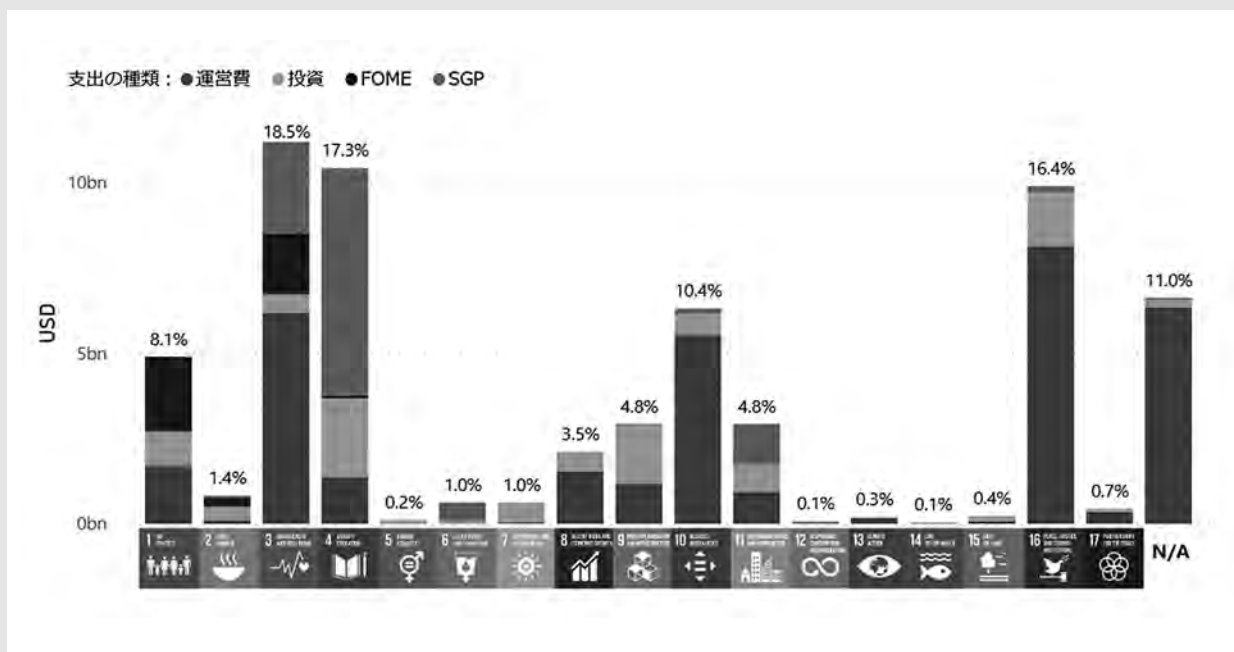


図1 コロンビア共和国予算における各SDGs指標の配分予算比率及び支出内訳(2020年)

出典：INFF Colombia

<https://app.powerbi.com/view?r=eyJrjoiMTUxMzhmZGYtNTY3YS00YzE1LWFkOWUtNDZlZmE4NTBjNGY3IiwidCI6ImIzZTVkYjVlLT15NDQtNDgzNy05OWY1LTc0ODhhY2U1NDMxOSIsimMiOj9h&pageName=ReportSectionc2ccfb45c6784434e77b>

世界各地のSDGsに対する国家予算への取組

自治体レベルでの取組についてはまだ限定的ではあるが、カーボベルデ共和国、ノルウェー王国、タイ王国で、自治体予算においてSDGsのタグ付けが実施されたことが報告されており、ネパールでは、自治体レベルでの能力向上支援の取組が進められている。

また、政府予算へのSDGsのタグ付けは、SDGsタクソミー、すなわちSDGsの優先課題における金融機関のポートフォリオと資金配分の追跡を可能にする。キルギス共和国では、GDPの約5%（約530億円）に相当する税制優遇措置をSDGsと関連付けるよう税法の改正が行われており、これを通じて、各省庁は税制と歳出における政府の全体的なSDGsへの対応を示すことが可能となっている。

さらに、予算のタグ付けは、グリーン資本・持続可能な資本を呼び込むための債券発行の基盤の提供にも役立つ。ウズベキスタン共和国では、2019年の歳出において予算のタグ付けを実施し、2021年に7項目のSDGs達成に向け約1218億円のSDGs国債を発行した。同様にメキシコ合衆国でも、2019年の連邦予算のタグ付けを実施した後、SDGs国債が発行されている。また、モンゴル国では、証券取引所がグリーンファイナンスやSDGsファイナンスのタクソミーに適合したプロジェクトに資金提供を行う企業に対

し、上場審査の免除や上場手数料の割引を行っている。

このようにSDGsの国家予算への組み込みを強化をするための様々な取組が世界各地で行われている。そして、これらの施策を実行するためには、強い政治的リーダーシップが不可欠であり、予算の要求から審査、執行、決算、評価に至るまで一貫性のある財政管理システムや計画の策定が重要となる。

マヘスティ・オキタサリ

専門は国際及び地域開発。アジア太平洋地域とアフリカ諸国・都市に焦点を当てた研究に従事。気候変動問題においては、包摂的な気候変動対策資金や再生可能エネルギーへの適応を中心とした研究を行っている。開発政策と国際的な枠組みとの関連性への理解を深め、SDGs達成にむけたパートナーシップに関する知見の蓄積に意欲的に取り組む。

竹本 明生

UNU-IASのプログラムヘッド。専門は環境政策。環境省にて気候変動適応計画の策定、環境影響評価法改正法案、家電エコポイント制度などの政策立案や国際交渉に従事した後、2018年から地球環境ファシリティ（米国）、2020年から国連大学にて気候変動対策とSDGsのシナジー、SDGsに関するガバナンス、国連大学大学院パリ協定専攻持続可能な開発のための教育（ESD）等の研究、教育、アウトリーチ活動を実施している。

丸山 鳴

UNU-IASのプログラムコーディネーター。2015年より地球環境パートナーシッププラザ業務を担当し、国連の主要なアジェンダやUNU-IASの取組に関する普及啓発に取り組む。省庁、NGO、研究者など多様なステークホルダーと連携し様々なアウトリーチ活動を国内外に向けて実施している。

執筆・翻訳協力：水野綾（UNU-IASプログラムアシスタント）、中庭佑香（UNU-IASプログラムアシスタント）